

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2019年6月24日

【事業年度】 第38期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社クリップコーポレーション

【英訳名】 CLIP Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役 井上 憲 氏

【本店の所在の場所】 愛知県名古屋市千種区内山三丁目18番10号

【電話番号】 052(732)5200(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部マネージャー代行 岡田 高 志

【最寄りの連絡場所】 愛知県名古屋市千種区内山三丁目18番10号

【電話番号】 052(732)5200(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部マネージャー代行 岡田 高 志

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)	3,869,484	3,610,587	3,453,612	3,305,668	3,433,407
経常利益 (千円)	602,744	353,436	184,785	204,900	255,256
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	346,748	198,368	62,931	170,025	141,107
包括利益 (千円)	378,371	176,370	82,137	108,731	103,549
純資産額 (千円)	6,229,755	6,070,689	5,838,661	5,643,843	5,582,001
総資産額 (千円)	7,017,040	6,814,569	6,593,695	6,525,888	6,386,499
1株当たり純資産額 (円)	1,388.93	1,384.33	1,362.49	1,364.97	1,350.01
1株当たり 当期純利益金額 (円)	77.31	44.56	14.63	40.90	34.13
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	88.8	89.1	88.5	86.5	87.4
自己資本利益率 (%)	5.6	3.2	1.1	3.0	2.5
株価収益率 (倍)	14.1	22.6	60.2	22.8	22.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	387,546	172,271	175,345	179,758	88,654
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	61,759	70,633	142,068	7,570	71,772
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	225,189	330,964	314,164	303,550	240,063
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,843,819	4,668,098	4,382,759	4,252,183	4,171,280
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用人員〕 (名)	193 〔324〕	204 〔342〕	202 〔318〕	215 〔324〕	198 〔325〕

- (注) 1. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 従業員数は、就業人員数を表示しております。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第38期の期首から適用しており、第37期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)	2,709,787	2,450,014	2,246,897	2,080,811	2,059,064
経常利益 (千円)	475,912	246,667	78,228	138,385	121,386
当期純利益 (千円)	294,685	139,451	26,628	154,711	99,719
資本金 (千円)	212,700	212,700	212,700	212,700	212,700
発行済株式総数 (株)	4,536,000	4,536,000	4,536,000	4,536,000	4,536,000
純資産額 (千円)	5,228,339	5,017,375	4,753,499	4,542,228	4,440,726
総資産額 (千円)	5,792,611	5,529,711	5,269,178	5,077,371	4,933,650
1株当たり純資産額 (円)	1,165.66	1,144.14	1,109.26	1,098.54	1,073.99
1株当たり配当額 (1株当たり 中間配当額) (円)	50.00 (-)	50.00 (-)	40.00 (-)	40.00 (-)	40.00 (-)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	65.70	31.33	6.19	37.21	24.12
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	90.3	90.7	90.2	89.5	90.0
自己資本利益率 (%)	5.7	2.7	0.5	3.3	2.2
株価収益率 (倍)	16.6	32.1	142.3	25.0	32.2
配当性向 (%)	76.1	159.6	646.0	107.5	165.8
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用人員〕 (名)	117 〔268〕	131 〔268〕	127 〔218〕	117 〔207〕	108 〔199〕
株主総利回り 〔比較指標：配当込み TOPIX〕 (%)	109.5 〔130.7〕	106.3 〔116.5〕	98.2 〔133.7〕	106.8 〔154.9〕	95.9 〔147.1〕
最高株価 (円)	1,248	1,120	1,010	1,039	980
最低株価 (円)	1,000	987	861	852	752

- (注) 1. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 従業員数は、就業人員数を表示しております。
4. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。
5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第38期の期首から適用しており、第37期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

- 1981年 5月 株式会社湯浅教育システム中部を設立、コンピュータ学習専用機器「ヤルキー」の販売を開始。
- 1982年 1月 現在の愛知県名古屋市千種区に本社を移転。
- 1982年 7月 ヤルキー学園中部運営本部を新設し、愛知県豊明市にヤルキー学園豊明進学教室を開設。
- 1982年10月 静岡県静岡市に静岡支社を新設。
- 1983年 2月 現在の静岡県静岡市北安東に静岡支社をヤルキー学園静岡運営支部と名称変更して移転。
- 1989年 3月 長野県松本市に湯浅教育研究所を新設。
- 1989年11月 株式会社ユアサシステムに社名を変更。
- 1990年 5月 株式会社フィールを設立し、美と健康事業部として化粧品販売を開始。
- 1991年 1月 宮城県仙台市太白区にヤルキー学園東北運営本部を新設。
- 1991年 7月 株式会社ヤルキー学園北海道本部の営業権を譲受。
- 1991年 7月 ユニシステム株式会社を設立し、ケーブルテレビビデオシステムの販売を開始。
- 1992年 2月 株式会社湯浅教育研究所の営業権を譲受。
- 1992年 5月 福岡県福岡市中央区にヤルキー学園九州運営本部を新設し、九州地区に進出。
- 1992年 5月 株式会社フィールの営業権を譲受。
- 1992年 6月 ユニシステム株式会社を株式会社ユアサシステムシーエイティーバイ事業部と改称。
- 1994年 6月 株式会社ユアサスポーツクラブを設立し、サッカー教室の展開を開始。
- 1995年 4月 現在の宮城県仙台市太白区にヤルキー学園東北運営本部を移転。
- 1995年 5月 福岡県北九州市にヤルキー学園北九州運営本部を新設。
- 1995年 6月 株式会社ユアサシステムシーエイティーバイ事業部と株式会社ユアサスポーツクラブを吸収合併。
- 1996年 2月 株式会社平和堂より飲食店の営業権を買い取り飲食事業に進出。
- 1996年 2月 長野県松本市の湯浅教育研究所を閉鎖。
- 1996年 4月 住宅関連商品事業課を新設し、北海道地区にて住宅関連商品の販売を開始。
- 1996年 5月 株式会社フィールを株式会社ユアサトータルサービスに商号変更。
- 1997年 1月 株式会社クリップコーポレーションと改称。
- 1997年 4月 現在の福岡県福岡市博多区にヤルキー学園九州運営本部を移転。
- 1998年 9月 日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2000年 2月 株式会社クリップアクトスタジオを設立し、ダンス教室を開始。
- 2000年 4月 株式会社クリップホームを設立し、住宅関連商品の販売を拡大。
- 2002年12月 株式会社クリップホームを株式会社クリップワークに商号変更。
- 2003年 7月 株式会社クリップアクトスタジオを売却(株式譲渡)。
- 2004年 1月 上海井上憲商務諮詢有限公司を設立。(現・連結子会社)
- 2004年 2月 株式会社ユアサトータルサービスを解散。
- 2004年 3月 株式会社クリップワークを解散。
- 2004年 9月 株式会社螢雪ゼミナールの全株式を取得する。(現・連結子会社)
- 2004年12月 日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
- 2010年 4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。
- 2010年10月 大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
- 2013年 7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
- 2014年10月 上海井上憲商務諮詢有限公司が住源不動産經紀(上海)有限公司を設立。(現・連結子会社)

2015年11月 株式会社日本体験センターを設立。(現・連結子会社)
2016年9月 CLIP FIRST LINK PTE.LTD.を設立。(現・連結子会社)
2017年12月 有限会社アクシスの全株式を取得する。(現・連結子会社)

3 【事業の内容】

当企業集団は㈱クリップコーポレーション（当社）及び連結子会社6社により構成されており、教育事業、スポーツ事業及び飲食事業（弁当宅配）等を行っております。

各事業における当社グループ各社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、セグメントと同一の区分であります。

教育事業…………… 当社及び㈱螢雪ゼミナール（連結子会社）及び(有)アクシス（連結子会社）が学習塾の運営を行っております。

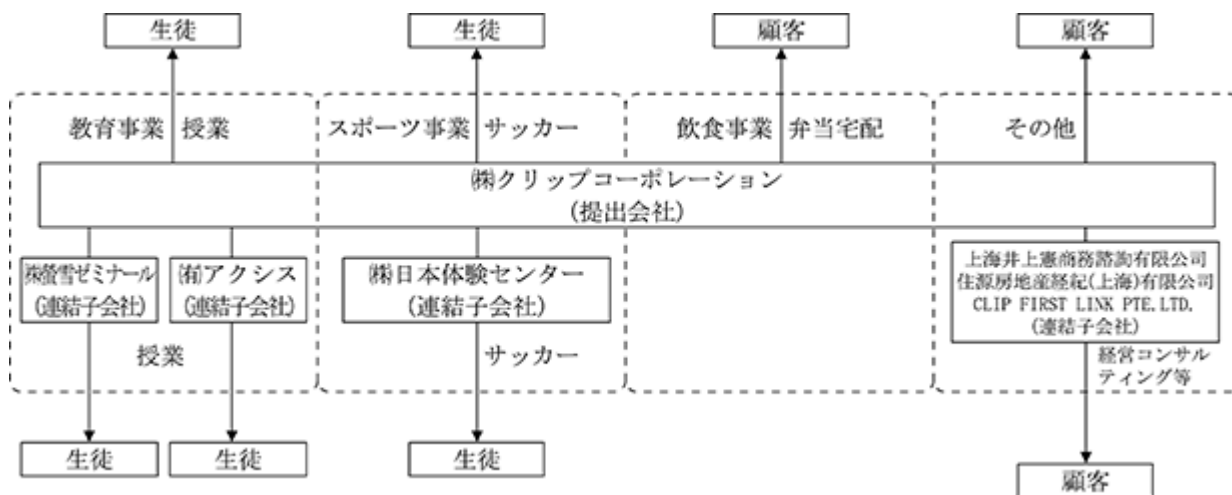
スポーツ事業…………… 当社及び㈱日本体験センター（連結子会社）がサッカー教室の運営を行っております。

飲食事業…………… 当社が弁当宅配事業を行っております。

その他…………… 当社がバスケット教室事業・農業事業・中古ゴルフクラブ販売事業及び焼肉店事業等を行っております。また、上海井上憲商務諮詢有限公司（連結子会社）及び住源不動産經紀（上海）有限公司（連結子会社）が中国市場において経営コンサルティング事業等を行っております。

〔事業系統図〕

以上の企業集団等について図示すると次のとおりであります。



また、その他の第三者（当社では指導代理店と呼んでおります。）に教室運営を委託している教室が17教室あります。この際、当社は人件費及び教室経費相当額を指導代理店に支払手数料として支払っております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有(被所有)割合(%)	関係内容
(連結子会社) (株)螢雪ゼミナール	岐阜県羽島郡岐南町	10,000千円	教育事業	100	教育事業における経営指導 役員の兼任3名
(連結子会社) (有)アクセス	兵庫県西宮市	3,000千円	教育事業	100	教育事業における経営指導 役員の兼任1名
(連結子会社) (株)日本体験センター	愛知県名古屋市中種区	10,000千円	スポーツ事業	100	スポーツ事業における経営指導 役員の兼任2名
(連結子会社) 上海井上憲商務諮詢有限公司	中華人民共和国上海市	750千USドル	その他	100	役員の兼任3名
(連結子会社) 住源不動産經紀(上海)有限公司	中国(上海)自由貿易 試験区	500千円	その他	100	役員の兼任3名

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. (株)螢雪ゼミナール及び上海井上憲商務諮詢有限公司は、特定子会社であります。

その他の子会社は、特定子会社に該当していません。

3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している子会社はありません。

4. 上記のほか、連結子会社CLIP FIRST LINK PTE.LTD.及び関連会社(株)SMCがありますが、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

5. (株)螢雪ゼミナールについては、売上高の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	1,265,532千円
	経常利益	224,921千円
	当期純利益	142,339千円
	純資産額	1,544,799千円
	総資産額	1,823,497千円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
教育事業	147 [224]
スポーツ事業	27 [55]
飲食事業	3 [21]
その他	10 [21]
全社(共通)	11 [4]
合計	198 [325]

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
108 [199]	36.0	7.9	3,886,652

セグメントの名称	従業員数(名)
教育事業	57 [98]
スポーツ事業	27 [55]
飲食事業	3 [21]
その他	10 [21]
全社(共通)	11 [4]
合計	108 [199]

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

当社グループの使命として収益性、社会性、教育性が考えられますが、それは企業規模が拡大・発展することによって、ますます社会的な責任が大きくなるものと考えております。

そのため、当社グループでは、社会的信用と知名度の向上、優秀な人材の確保と従業員のモラル向上、資金調達の拡大及び自己資本の充実による財務体質の安定と強化を図ることにより発展していくことが社会的責任並びに株主・投資者に報いるものと考えております。

株主に対する利益還元としての配当金の確保並びに将来の設備投資に資する内部留保の確保として、また資産の効率運用を行うため、自己資本利益率20%以上の達成をすべく鋭意努力していく所存であります。

今後の成長と収益確保を目指して、基本戦略を以下のとおりとしております。

- 1．新市場の開拓（現状の取組...学習塾・サッカースクールの新規拠点開設・M & Aの検討・新規事業への取組等）
- 2．固定費の削減（現状の取組...教室閉鎖の基準の明確化・教室運営費用の見直し・成果に見合った給与体系等）
- 3．収支第一主義（現状の取組...収支バランス・キャッシュフローの考え方の徹底・教室単位での生産性レベルの向上等）

教育事業は、新しいタイプの学習塾として「知識 体験 知恵」を実現化させるため、農業体験等の拡充を図ってまいります。

また、M & Aを企業グループ成長の一つの考え方と認識し、広く案件の収集と積極的な対応を行ってまいります。

会員ビジネスを事業の中核とする当社グループといたしましては、顧客の信頼・信用を得て今後とも成長を続けていくためには、従来と同様に営業力とサービス力の継続的な強化と時代に合った戦略が必要であると深く認識しております。

そのために、教育事業部門におきましては、個別指導学習塾が全国に増加するなかで、「体験と学習」の考え方を中心に置き、その実践の場として、農業体験等の充実・拡大に努め、生徒並びに保護者に対して提案を行い、他塾との差別化を図ってまいります。

スポーツ事業部門におきましては、新規スクールの拠点開設によるサッカー生の増加とコストの適正化に努め、利益回復を図ってまいります。

会員数増加に関しましては、担当者の確保と資質の向上とともに、インターネットを活用した会員数増加のための仕組みづくりも課題の一つと認識しております。

飲食事業部門につきましては、エリア拡大・顧客数の増加による増収とコスト削減による利益確保が重要な課題であると認識しております。

その他の事業につきましては、次の柱を構築することを目的として、1．現金商売であること、2．会員ビジネス（リピーターを含む。）であること、3．エンドユーザー対象であるビジネスであること、4．当初の設備投資が安価であること、5．事業を担当する責任者が当社の体質を十分に理解していること、を基本に置いてグループ全体の活性化と人材の活用を目指してまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 長期的な変動要因

当社の主要事業は、教育事業(学習塾)とスポーツ事業(サッカー教室)となりますが、ともに子どもを対象とした事業であるため、長期的には少子化の影響を受ける可能性があります。

(2) 他社競合等、短期的な変動要因

当社の営業地域において、同業他社の進出や雇用状況の悪化にともない生徒数の減少等が生じた場合、当社業績に影響を受ける可能性があります。

また、学習指導要領等の変更にともない教科書内容や指導内容に変更等が生じた場合、学習塾にて使用する教材内容を変更・修正する必要があり、これによる費用の発生が当社利益を圧迫する可能性があります。

(3) 出店・退店政策について

当社は利益管理を重視しており、経営効率が悪く利益の回復が見込めない学習塾教室については、閉鎖退店する方針をとっております。

すべての店舗について賃貸契約を締結しておりますが、採算性重視の立場から当社の出店条件に合致する物件がなければ出店予定数を変更することがあるため、当社の業績見通しに影響を及ぼす可能性があります。

また、業績好調な教室であっても賃貸人の事由により、退店を余儀なくされる可能性があるほか、賃貸人が倒産した場合等には、入居保証金等の全額または一部が回収できなくなる可能性もあるものと認識しております。

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
閉鎖数	19	12	8	11	3
開設数	10	9	6	10	6
期末教室数	116	113	111	110	113

(4) サッカー教室の会場について

当社のスポーツ事業は、主にサッカー教室を地域の公園・グラウンド等において実施しております。

公園の利用に際しては、公園の公共性や地域住民の福祉の増進という公園本来の機能を尊重し、教室の運営にあたっては細心の注意を払っておりますが、当社として可能な限りの注意を払ったとしても、一部において他の公園利用者や近隣住民等との間で予期せざるトラブルが生じる可能性があります。

こうしたトラブルにより公園利用に支障を来し、かつ、トラブルの解決に長期間を要する場合には、当社はサッカー教室の一時休止や移転・閉鎖を実施することがあります。

このことでサッカー教室の生徒数が減少し、当社の経営成績または財務状態に影響を受ける可能性があります。

(5) 生徒情報の管理について

当社は生徒に関する情報を保有しております。

現在まで情報の流失による問題は発生しておりませんが、今後生徒情報の流失により問題が発生した場合には、その後の事業展開、経営成績に影響を受ける可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ(当社及び連結子会社)の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、「体験と学習」の実践の場として農業体験等を積極的に進めることと並行して既存教室及び既存サッカースクールの生産効率の見直しを徹底してまいりました。

さらに当連結会計年度は、新規サッカースクールの拠点開設を推し進め、新たな会員数増加のための仕組みづ

くりに取り組んでおります。

この結果、売上高34億33百万円（前期比3.9%増）となりました。

利益面につきましては、営業利益 1 億91百万円（前期比3.4%減）、経常利益 2 億55百万円（前期比24.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 1 億41百万円（前期比17.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

教育事業

学習塾につきましては、当期より有限会社アクセス（稲門塾）の損益を当社グループに含めております。子会社である株式会社螢雪ゼミナールと有限会社アクセス（稲門塾）を含む期中平均生徒数は前期6,366名から、当期6,786名と増加し、売上高25億35百万円（前期比7.8%増）、セグメント利益 2 億90百万円（前期比27.9%増）となりました。

スポーツ事業

サッカースクールにつきましては、既存サッカースクールの統廃合を進めるとともに、新規サッカースクールの拠点開設を推し進めてまいりました。その結果、期中平均生徒数は、前期7,912名から当期7,681名と減少しておりますが、期末の生徒数は8,072名となり、回復傾向にあります。売上高 5 億72百万円（前期比2.9%減）、セグメント損失は、24百万円（前期セグメント利益38百万円）となりました。

飲食事業

添加物・保存料を使用しない弁当の宅配事業を展開しており、当期の売上高 2 億10百万円（前期比2.7%減）、セグメント損失は55百万円（前期セグメント損失56百万円）となりました。

その他

バスケット教室事業・農業事業等を行っており、当期の売上高 1 億17百万円（前期比21.9%減）、セグメント損失は18百万円（前期セグメント損失10百万円）となりました。

財政状態につきましては、当連結会計年度末における総資産は、63億86百万円（前連結会計年度末は65億25百万円）となり、1億39百万円減少しました。

流動資産合計は52億16百万円（前連結会計年度末は52億24百万円）となり、7百万円減少しました。その主な要因は、現金及び預金が80百万円減少したことと商品及び製品が55百万円増加したことによるものであります。

固定資産合計は11億69百万円（前連結会計年度末は13億 1 百万円）となり、1 億31百万円減少しました。その主な要因は、のれんの23百万円減少、投資不動産の12百万円減少、保険積立金の47百万円減少及び投資有価証券が49百万円減少したことによるものであります。

流動負債合計は 6 億70百万円（前連結会計年度末は 7 億41百万円）となり、71百万円減少しました。その主な要因は、1 年以内返済予定の長期借入金74百万円減少したことと、未払法人税等が 8 百万円減少したことによるものであります。

固定負債合計は 1 億34百万円（前連結会計年度末は 1 億40百万円）となり、6 百万円減少しました。その主な要因は、退職給付に係る負債が 2 百万円減少したことと、固定負債その他（預り保証金）が3百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は55億82百万円（前連結会計年度末は56億43百万円）となり、61百万円減少しました。その主な要因は親会社株主に帰属する当期純利益の計上と剰余金の配当に伴い利益剰余金が24百万円減少したことと、その他有価証券評価差額金が35百万円減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ80百万円(前期末比1.9%減)減少し、当期末は41億71百万円となりました。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動による資金の増加は88百万円(前年同期比50.7%減)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が2億48百万円(前年同期比10.2%減)あったことと、法人税等の支払額が1億9百万円(前年同期は83百万円)あったことによるものであります。

(投資活動におけるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動による資金の増加は71百万円(前年同期は7百万円の減少)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出が7億51百万円(前年同期は7億51百万円)あったことと、定期預金の払戻による収入が7億51百万円(前年同期は7億51百万円)あったこと、保険積立金の解約による収入が1億10百万円あったことによるものであります。

(財務活動におけるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動による資金の減少は2億40百万円(前年同期は3億3百万円の減少)となりました。これは主に、配当金の支払額1億65百万円(前年同期は1億71百万円)があったことと、長期借入金の返済による支出が74百万円あったことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 販売方法

教育事業・スポーツ事業.....主に募集要項に基づき、直接生徒を募集しております。

飲食事業.....弁当を宅配により、直接顧客に販売しております。

b. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
教育事業		
小学生	466,108	104.5
中学生	1,756,909	108.7
高校生	312,936	108.3
小計	2,535,954	107.8
スポーツ事業	572,852	97.1
飲食事業	210,840	97.3
その他	113,759	77.1
合計	3,433,407	103.9

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 上記金額には、消費税等が含まれていません。

3. 主な相手先別の販売実績につきましては、売上高の10%以上を占める主要顧客はありませんので記載を省略しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、財政状態および経営成績に関する以下の分析が行われています。

当社グループ経営陣は、連結財務諸表の作成に際し、決算日における資産・負債の報告数値および偶発債務の開示、ならびに報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積りおよび仮定設定を行わなければなりません。経営陣は、貸倒債権、たな卸資産、投資、法人税等、退職金、偶発事象や訴訟等に関する見積りおよび判断に対して、継続して評価を行っております。経営陣は、過去の実績や状況に応じた合理的だと考えられる様々な要因に基づき、見積りおよび判断を行い、その結果は、他の方法では判定しにくい資産・負債の簿価および収入・費用の報告数字についての判断の基礎となります。実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これら見積りと異なる場合があります。

当社グループは、特に以下の重要な会計方針が、当社グループの連結財務諸表の作成において使用される当社グループの重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

収益の認識

当社グループの売上高は、通常、サービスが提供された時点で計上されます。

また、ユニフォーム等商品の販売につきましては、販売時点で売上を計上しております。

たな卸資産

当社グループは、たな卸資産の、推定される将来需要および市場状況に基づく時価の見積額と原価との差異に相当する陳腐化の見積額について、評価減の計上が必要となる可能性があります。実際の将来需要または市場状況が当社グループ経営陣の見積りより悪化した場合、追加の評価減が必要となる可能性があります。

固定資産の減損

固定資産の減損に係る会計基準の適用により、当社グループが保有する固定資産等が減損の対象となる場合があり、減損処理が必要となる可能性があります。

投資の減損

当社グループは、長期的な取引関係維持のために、金融機関に対する少数持分を所有しております。さらに将来の提携等、関係強化目的のため、事業会社の株式を保有しております。これらの株式は、価格変動により価値が低下する可能性があります。

当社グループは投資価値の下落が一時的でないと判断した場合、投資の減損を計上しております。時価のある有価証券の場合、時価の下落率が著しい下落に該当した場合に減損を計上しております。将来の市況悪化または投資先の業績不振により、現在の簿価に反映されていない損失または簿価の回収不能が発生した場合、評価損の計上が必要となる可能性があります。

のれんの減損

当社グループは、のれんについて、その効果の発現する期間を見積り、その期間で均等償却しております。また、その資産性について子会社の業績や事業計画等を基に検討しており、将来において当初想定した収益が見込めなくなり、減損の必要性を認識した場合には、当該連結会計年度においてのれんの減損処理を行う可能性があります。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、回収可能性が高いと考えられる金額へ減額するために評価性引当額の必要性を検討しております。評価性引当額の必要性を評価するに当たっては、将来の課税所得および、慎重かつ実現可能性の高い継続的な税務計画を検討しますが、繰延税金資産の全部または一部を将来実現できないと判断した場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産の調整額を費用として計上します。

退職給付費用

当社グループは、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの数値目標である自己資本利益率20%に対して、当連結会計年度の自己資本利益率は、2.5%となり、大きくかい離した状況が続いております。利益面につきましては、サッカー学校の新規拠点の開設費用や人材採用のための費用等が増加し、営業利益1億91百万円(前期比3.4%減)、経常利益2億55百万円(前期比24.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1億41百万円(前期比17.0%減)となりました。

売上高は、前連結会計年度に比べ3.9%増収の34億33百万円となりました。

売上原価は、前連結会計年度の21億32百万円から5.5%増加し、22億50百万円となりました。売上高に対する売上原価の比率は前連結会計年度の64.5%から当連結会計年度は65.5%となっております。

販売費及び一般管理費は前連結会計年度の9億74百万円から1.8%増加し、9億91百万円となりました。

営業利益は、前連結会計年度の1億98百万円に対して3.4%減の1億91百万円となりました。

営業外収益(費用)は、前連結会計年度の6百万円の収益(純額)から889.9%増加し、63百万円の収益(純額)となりました。

税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度の2億76百万円から10.2%減少し、2億48百万円となりました。

税金等調整前当期純利益に対する法人税の比率(実効税率)は、前連結会計年度の38.5%から4.7ポイント増加し、43.2%となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度の1億70百万円に対し、17.0%減の1億41百万円となりました。1株当たりの当期純利益は、前連結会計年度の40.90円に対し、16.6%減の34.13円となりました。

学習塾の新規教室設立や、サッカー学校の新規拠点開設をすすめていくことにより、売上増収の流れを継続していくこととともに、コストの適正化に努め、利益の回復を図ってまいります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、営業活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より91百万円少ない88百万円の資金を得ました。これは主に、税金等調整前当期純利益が前連結会計年度より28百万円少ない2億48百万円となったことと、法人税等の支払額が26百万円多い1億9百万円発生したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より79百万円多い71百万円の資金を得ました。これは主に、保険積立金の解約による収入1億10百万円あったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より63百万円少ない2億40百万円の資金を使用しました。これは主に、配当金の支払額が前連結会計年度より6百万円少ない1億65百万円発生したことによるものと、長期借入金の返済による支出が74百万円あったことによるものであります。

当社グループの資金需要のうち主なものは、当社グループの原価ならびに販売費及び一般管理費に占める人件費等のほか、当社の教育事業部門における教室家賃、新規教室の開設費用や新規事業等の事務所家賃等であります。

2019年3月31日現在の契約債務の概要は下記の通りであります。

	年度別支払金額(百万円)				
	合計	1年以内	1～3年	3～5年	5年以降
短期借入金	250	250			
長期借入金					
オペレーティングリース	9	4	4	0	

当社グループは現在、運転資金および設備投資資金につきましては、内部資金または借入により資金調達することとしております。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は、次のとおりであります。

教育事業

教育事業の売上高は、前連結会計年度の平均生徒数6,366名と比較し、6.6%増加の6,786名となったことから、前連結会計年度の23億51百万円と比べ7.8%増加し、25億35百万円となりました。

教育事業の営業利益は、前連結会計年度の2億27百万円と比較して63百万円増加の2億90百万円となり、売上高営業利益率は、前連結会計年度の9.7%から11.5%となりました。

スポーツ事業

スポーツ事業の売上高は、前連結会計年度の平均生徒数7,912名と比較し、2.9%減少の7,681名となったことから、前連結会計年度の5億89百万円と比べ2.9%減少し、5億72百万円となりました。

スポーツ事業の営業損益は、前連結会計年度の38百万円と比較して当連結会計年度はマイナス24百万円となりました。

飲食事業

飲食事業の売上高は、前連結会計年度の2億16百万円と比べ2.7%減少し、2億10百万円となりました。

飲食事業の営業損失は、前連結会計年度が56百万円だったのに対して当連結会計年度は55百万円となりました。

その他

その他の売上高は、前連結会計年度の1億50百万円と比べ21.9%減少し、1億17百万円となりました。

その他の営業損失は、前連結会計年度が10百万円だったのに対して当連結会計年度は18百万円となりました。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、教育事業及びスポーツ事業並びに飲食事業の成長に向けて、また新規事業準備のため、設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は44百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 教育事業

当連結会計年度の主な設備投資は、教室の開設にともなう内装工事等であり、総額38百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) スポーツ事業

当連結会計年度において、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

(3) 飲食事業

当連結会計年度において、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

(4) その他

当連結会計年度において、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

(5) 全社共通

当連結会計年度において、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備 の内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	有形固定 資産 その他	ソフト ウェア	無形固定 資産 その他	敷金及び 保証金	合計	
東京運営本部 (東京都小平市花小金 井南町)	教育事業 スポーツ事業 その他	教室 設備他	126		1,023		4,582	14,157	19,889	28
神奈川運営本部 (神奈川県大和市西鶴 間)	教育事業 スポーツ事業 その他	教室 設備他	0		31		1,527	3,562	5,122	10
本社・中部運営本部 (愛知県名古屋市 千種区)	教育事業 スポーツ事業 飲食事業 その他	教室 設備他	99,635	130,646 (2,542.1)	3,848	1,685	9,251	45,408	290,477	51
関西運営本部 (大阪府大阪市 中央区)	教育事業 スポーツ事業	教室 設備他			1,529		2,055	4,308	7,893	19

- (注) 1. 従業員数には、パートタイマーは含まれておりません。
 2. 有形固定資産その他は、車両運搬具と工具、器具及び備品です。
 3. 無形固定資産その他は、電話加入権です。

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備 の内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	有形固定 資産 その他	ソフト ウェア	無形固定 資産 その他	敷金及び 保証金	合計	
㈱螢雪 ゼミナール	本店 (岐阜県羽島郡 岐南町)	教育事業	教室 設備他	109,287		3,817	4,942	3,999	143,782	265,829	83

- (注) 1. 従業員数には、パートタイマーは含まれておりません。
 2. 有形固定資産その他は、工具、器具及び備品です。
 3. 無形固定資産その他は、電話加入権と映像授業コンテンツです。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画は、以下のとおりであります。

(1) 新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月	
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手年月	完了予定
(株)クリップ コーポレー ション	愛知県名 古屋市千 種区	教育事業 スポーツ事業 飲食事業 その他	教室・事業所開 設用敷金保証金 等	5,000		自己資本	2019年 4月	2020年 3月
(株)螢雪ゼミ ナール	岐阜県羽 島郡岐南 町	教育事業	教室開設用敷金 保証金等	35,000		自己資本	2019年 4月	2020年 3月

(2) 除却

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	期末帳簿価額 (千円)	除却予定時期
(株)クリップコーポ レーション	愛知県名古屋市 千種区	教育事業	教室内装他	2,000	通年
(株)螢雪ゼミナール	岐阜県羽島郡岐 南町	教育事業	教室内装他	2,000	通年

(注) 上記金額は、消費税等を含んでおりません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,896,000
計	10,896,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,536,000	4,536,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であり ます。
計	4,536,000	4,536,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2003年5月20日 (注)	1,512	4,536		212,700		29,700

(注) 2003年5月20日に、2003年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主に対し、所有株式数を1株につき1.5株の割合をもって分割いたしました。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)		8	12	19	14	6	2,313	2,372	
所有株式数 (単元)		4,433	421	11,581	5,660	88	23,161	45,344	1,600
所有株式数 の割合(%)		9.8	0.9	25.5	12.5	0.2	51.1	100.0	

(注) 自己株式401,212株は、「個人その他」に4,012単元、「単元未満株式の状況」に12株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有 株式数の割合(%)
株式会社平和堂	名古屋市千種区今池五丁目5-6	1,150	27.81
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7-1)	270	6.55
山下 隆 弘	愛知県長久手市	268	6.49
株式会社十六銀行	岐阜県岐阜市神田町八丁目26	140	3.40
磯 村 紀 美	名古屋市東区	136	3.29
井 上 信 氏	名古屋市中区	136	3.29
井 上 正 憲	名古屋市千種区	135	3.28
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都中央区月島四丁目16-13)	125	3.02
株式会社愛知銀行	名古屋市中区栄三丁目14-12	95	2.31
井 上 憲 氏	名古屋市中区	79	1.92
計		2,537	61.36

(注) 上記のほか当社所有の自己株式401千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 401,200		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,133,200	41,332	同上
単元未満株式	普通株式 1,600		同上
発行済株式総数	4,536,000		
総株主の議決権		41,332	

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社クリップ コーポレーション	名古屋市千種区内山 三丁目18-10	401,200		401,200	8.84
計		401,200		401,200	8.84

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	401,212		401,212	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要政策の一つと考えており、急速な顧客ニーズの変化に対応したサービスの開発、人材の採用と育成に努め、会社の競争力を維持・強化し、収益力の向上、財務体質の強化を図りながら、配当水準の向上と安定化に努めることを基本方針としております。

当社は、期末配当として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

利益配当は、中長期の成長見通しと足元の業績のバランスを考慮するとともに安定的な配当の継続及び株主還元を重要と考えております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定配当の考え方を重視し、普通株式1株につき40円といたしました。

今後とも、業績の動向や1株当りの利益の推移を総合的に勘案の上、利益還元に努めてまいり所存であります。

内部留保金の使途につきましては、学習塾の新規教室開設資金やM&A案件投資、及び新規事業投資に充当する予定としております。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2019年6月21日 定時株主総会決議	165,391	40

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

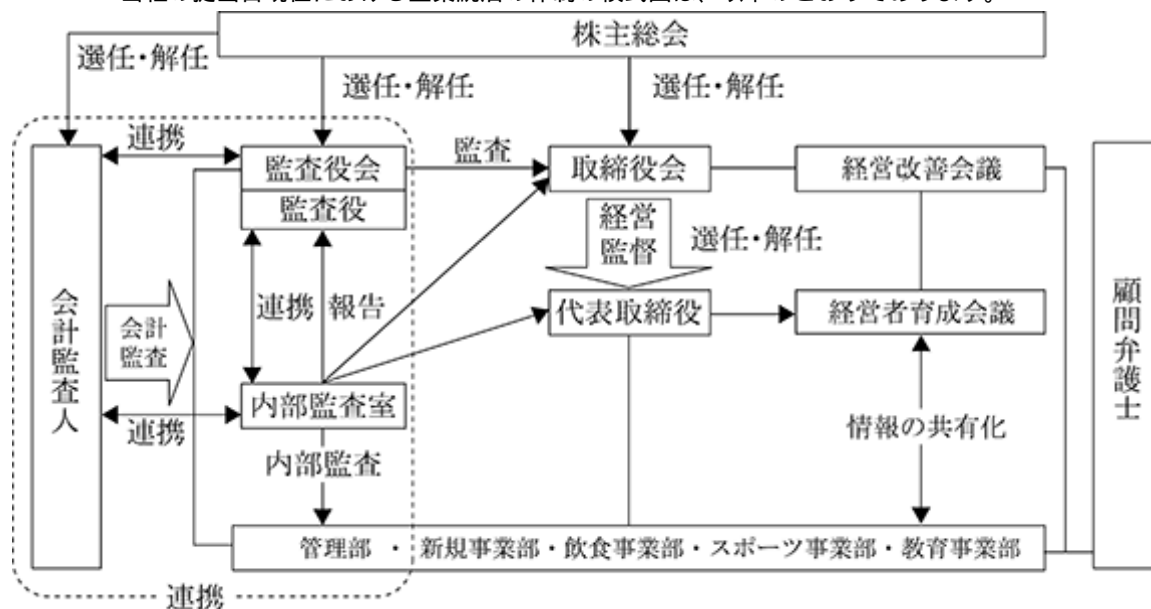
(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、素早い正確な情報管理と意思決定を最大目標としております。そのため、少数精鋭による管理体制が必要と考え、役員等の人員が肥大化しないように努めてまいりました。今後もこの方針を継続しつつ、経営規模の拡大やコーポレート・ガバナンスに対する強化要請等に応じて管理組織の充実に努めてまいります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社の提出日現在における企業統治の体制の模式図は、以下のとおりであります。



(a) 企業統治の体制の概要

a. 取締役会

当社の取締役会は、代表取締役 井上憲氏が議長を務めております。その他のメンバーは、取締役 山下隆弘、取締役 井上壽美子、取締役 高山俊昭、取締役 三輪智明、社外取締役 岸 剛史の取締役6名（うち社外取締役1名）で構成されており、毎月の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会は、法令・定款に定められた事項のほか、取締役会規定に基づき重要事項を決議し、各取締役の業務執行の状況を監視しております。

また、取締役会には、すべての監査役が出席し、取締役の業務執行の状況を監視できる体制となっております。

b. 監査役会

当社は監査役会制度を採用しております。監査役 橋本学、社外監査役 川崎修一、社外監査役 日比大介の常勤監査役1名及び非常勤監査役2名で構成されており、うち2名が社外監査役であります。監査役会は、毎月の定例監査役会のほか、必要に応じて臨時監査役会を開催しております。常勤監査役は、取締役会のほか、重要な会議に出席し、必要に応じて意見陳述を行う等、常に取締役の業務執行を監視できる体制となっております。

また、内部監査室及び会計監査人と随時情報交換や意見交換を行い、監査機能の向上を図っております。

c. 経営者育成会議

経営者育成会議は、代表取締役 井上憲氏が議長を務めております。原則として毎月1回開催されており、その他のメンバーは、取締役 高山俊昭、取締役 三輪智明、関東エリアリーダー 小池哲由、子会社である螢雪ゼミナール取締役 白田克敏で構成されており、次世代幹部の育成に努めております。

d. 内部監査室

内部監査室は、内部監査室長 柴田繁が内部監査規程に基づき、グループ会社を含む各部門の業務活動に関して、期首に代表取締役に対して内部監査の方針及び計画書を提出し、承認を受けた後に、計画に基づき内部監査を実施し報告書等を関係機関に対して提出しております。

(b)当該企業統治の体制を採用する理由

当社がこの企業統治の体制を採用する理由としましては、企業価値の増大・最大化及び経営意思決定の迅速化を目的としております。

今後もこの方針を継続しつつ、経営規模の拡大やコンプライアンスやコーポレート・ガバナンスに対する時代の要請に応じて、企業統治の体制の整備及び充実に努めてまいります。

企業統治に関するその他の事項

(a)内部統制システムの整備状況

当社は、「内部統制基本方針」を定め、内部統制システムを整備するとともに、運用の徹底を図っております。また、規程遵守の実態確認と内部統制機能が有効に機能していることを確認するために、内部監査室が内部監査を実施しております。内部監査室は、監査役会及び会計監査人とも連携し、監査の実効性を確保しております。

(b)リスク管理体制の整備の状況

経営改善会議を管理部内に設置し、毎月外部コンサルタント出席の上、コーポレートガバナンスをさらに有効に機能させることを目指しております。

(c)子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

a.当社の子会社の取締役、業務を執行する社員、取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
管理部マネージャーは、子会社の自主性を尊重しつつ、業務の適正を確保するため、定期的な会合を子会社との間に持ち、情報の適切な交換と円滑な業務の執行を促すものとしております。

関係会社管理規程に基づき、当社並びに子会社の管理は管理部マネージャーが総括し、子会社の取締役等は営業成績、財務状況その他の重要な情報については、定期的な報告を義務付けるものとしております。

b.当社の子会社の損失の危険の管理に関する規定その他の体制

子会社においても、損失の危険の管理に関する規定その他の体制のために、当社と同様の規程を制定し体制の整備を行うものとしております。

c.当社の子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

子会社においても、取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制のために、当社と同様の規程を制定し体制の整備を行うものとしております。

d.当社の子会社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

子会社においても、取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制のために、当社と同様の規程を制定し体制の整備を行うものとしております。

管理部マネージャーは、子会社の管理状況や経営計画の進捗状況等について、取締役会において定期的に報告するものとしております。

監査役と内部監査室は常に連携を取り、当社並びに子会社の業務の適正を確保するための調査を行い、必要がある場合は、その内容を取締役会規程に基づき毎月1回以上開催される取締役会に参加して報告し、問題点の早期発見と改善に努めております。

(d)責任限定契約の内容の概要

社外取締役1名につきましては、当社定款第27条並びに会社法第427条第1項に基づき損害賠償責任を限定する契約の締結を行っております。

社外監査役2名につきましては、当社定款第35条並びに会社法第427条第1項に基づき損害賠償責任を限定する契約の締結を行っております。

当該契約の内容の概要につきましては、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意かつ重大な過失がないときは、当社と契約した金額が法令に定める金額のいずれか高い額を限度とするものであります。

(e)取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

(f)取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

解任決議について、会社法第341条の規定により、議決権を行使することができる株主の過半数を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行われます。

(g)取締役会で決議できる株主総会決議事項

a. 中間配当

当社は、機動的な利益還元を可能にするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

b. 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

(h)取締役会で決議できる株主総会決議事項

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率11.1%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	井上 憲 氏	1945年9月26日生	1968年10月 1971年3月 1971年4月 1971年12月 1972年1月 1980年9月 1980年10月 1982年1月 2015年11月 2018年3月	私立大阪工業大学高等学校普通 科、非常勤講師 同校退任 大倉建設株式会社入社 同社退社 日昭産業株式会社(現 日昭アル ミ工業株式会社)入社 同社退社 株式会社平和堂設立、代表取締役 就任(現) 当社入社、代表取締役就任(現) 株式会社日本体験センター設立、 代表取締役就任(現) 株式会社螢雪ゼミナル代表取締 役就任(現)	(注)1	79
取締役	山下 隆 弘	1953年2月4日生	1976年4月 1980年9月 1980年10月 1982年2月 1982年2月 1985年5月 1988年6月 2000年6月 2002年6月 2004年9月 2013年9月 2017年12月 2019年6月	日昭産業株式会社(現 日昭アル ミ工業株式会社)入社 同社退社 株式会社平和堂入社 同社退社 当社入社 ヤルキー学園中部運営本部リー ダー 取締役教育事業部マネージャー就 任 専務取締役教育事業部門担当就任 代表取締役専務教育事業部門担当 就任 株式会社螢雪ゼミナル代表取締 役就任 専務取締役教育事業部門担当兼社 長室長就任 有限会社アクシス取締役就任 (現) 取締役就任(現)	(注)1	268
取締役 新規事業部 マネージャー	井上 壽美子	1950年11月15日生	1966年4月 1971年2月 1989年5月	朝日ビル建物管理株式会社入社 同社退社 当社入社、取締役新規事業部マ ネージャー就任(現)	(注)1	13
常務取締役	高山 俊 昭	1969年9月19日生	1993年10月 1996年4月 2005年4月 2012年6月 2013年9月 2019年6月	当社入社 中部運営本部リーダー 飲食事業部リーダー 取締役飲食事業部マネージャー就 任 取締役飲食事業部マネージャー兼 教育事業部マネージャー就任 常務取締役就任(現)	(注)1	21
取締役 経営企画 室長	三輪 智 明	1966年6月22日生	1989年4月 1995年5月 2001年2月 2017年3月 2017年6月	当社入社 北九州運営本部リーダー 関東運営本部リーダー 経営企画室長就任 取締役経営企画室長就任(現)	(注)1	29

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	岸 剛 史	1977年 7 月29日生	2000年 4 月	東洋信託銀行株式会社(現 三菱UFJ信託銀行株式会社)入行	(注)2	
			2001年 4 月	同行退行		
			2003年10月	監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)入所		
			2006年12月	同所退所		
			2008年 1 月	岸保産業株式会社入社(現)		
			2008年 2 月	岸保産業株式会社常務取締役就任		
			2010年 2 月	岸保産業株式会社代表取締役就任(現)		
			2017年 6 月	当社取締役就任(現)		
監査役 常勤	橋 本 学	1951年 9 月 3 日生	1977年 4 月	日昭産業株式会社(現 日昭アルミ工業株式会社)入社	(注)3	28
			1981年 9 月	同社退社		
			1981年11月	株式会社ハルモ開業 代表取締役就任		
			1983年 3 月	株式会社ハルモ清算		
			1983年 5 月	当社入社		
			1991年 5 月	取締役管理部マネージャー就任		
			2000年 6 月	取締役社長室長管理部門担当就任		
			2001年 6 月	取締役社長室長就任		
			2004年 6 月	取締役退任		
			2004年 6 月	常勤監査役就任		
			2007年 6 月	常勤監査役退任		
			2007年 6 月	取締役社長室長就任		
			2012年 6 月	取締役退任		
			2012年 6 月	常勤監査役就任(現)		
監査役	川 崎 修 一	1973年 1 月18日生	2004年10月	富岡法律特許事務所入所	(注)4	
			2007年12月	同事務所退所		
			2008年 1 月	オーバル法律特許事務所入所		
			2009年 4 月	愛知大学大学院法務研究科准教授(現)		
			2010年 6 月	当社監査役就任(現)		
			2011年10月	オーバル法律特許事務所退所		
			2011年10月	川崎修一法律事務所(現 久屋総合法律事務所)設立 同代表弁護士(現)		
監査役	日 比 大 介	1979年 6 月23日生	2004年12月	監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)入所	(注)4	
			2006年12月	同所退所		
			2007年 1 月	税理士法人トーマツ入所(現 デロイトトーマツ税理士法人)		
			2009年 4 月	同所退所		
			2009年 4 月	日比会計事務所入所(現)		
			2010年 6 月	当社監査役就任(現)		
			2015年 7 月	日比会計事務所代表就任(現)		
計						440

- (注) 1. 取締役の井上憲氏、山下隆弘、井上壽美子、高山俊昭並びに三輪智明の任期は、2018年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2020年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
2. 取締役の岸剛史は、社外取締役であり、任期は2018年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2020年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 監査役の橋本学の任期は、2016年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2020年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の川崎修一並びに日比大介の 2 名は、社外監査役であり、任期は2018年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から2022年 3 月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役2名を選出しております。

監査役橋本学の補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
柴田 繁	1953年2月9日生	1982年10月 2004年4月	当社入社 内部監査室長(現)	2

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

監査役川崎修一及び監査役日比大介の補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
高橋 敏和	1953年1月8日生	1992年5月 2010年1月	コーナン商事株式会社入社 同社退社	

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6. 取締役井上壽美子は代表取締役井上憲氏の配偶者であります。

社外役員の状況

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役の岸剛史氏は、公認会計士の資格を有しており、また企業経営者としての経験もあり、高度な専門知識と企業経営経験から、社外取締役として適任と判断し、経営監督機能の強化に取り組んでおります。

当社は、経営の意思決定機能と、業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化する考えであります。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整うと考えております。

社外取締役1名及び社外監査役2名と、当社との人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係は、ありません。

社外取締役及び社外監査役の当社からの独立性に関する基準又は方針はありませんが、東京証券取引所が規定する独立役員要件を満たしていること及び、当該人物が専門分野における意見表明を適切に行い、かつ、日頃より意見表明を行うことが可能な環境を整備する必要があるものと考えております。

社外取締役及び社外監査役の選任状況につきましては、財務、会計及びコンプライアンス等に関して一定以上の知見を有しており、業務に対して処理能力や積極性があると当社が判断できる人物を選任したのと考えております。

社外監査役の川崎修一氏は弁護士の資格を有し、日比大介氏は公認会計士・税理士の資格を有しているため、従来の外部専門家の指導・アドバイスに加え、当社のコンプライアンス及び財務・会計の健全性及び適正性に貢献していただけるものと判断しております。

なお、独立役員として指定している社外取締役の岸剛史氏、社外監査役の川崎修一氏及び日比大介氏は、当社との人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係は、ありません。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との関係は、内部監査は、内部監査室が行っており、業務活動に関して、運営状況、業務実施の有効性及び正確性、コンプライアンスの遵守状況について監査を行い、その結果を代表取締役に対して報告するとともに、業務の改善及び適切な運営に向けての具体的な助言や勧告を行っております。また、内部監査室は、監査役とも密接な連携をとっており、監査役は、内部監査状況を適時に把握できる体制になっております。

監査役は、監査役会で策定した監査計画に基づいて、当社及び子会社の業務全般について、常勤監査役を中心として計画的かつ網羅的な監査を実施しております。また、取締役会その他重要な会議に出席し、意見を述べるほか、取締役からの聴取、重要な決裁書類の閲覧を通じ監査を実施しております。監査役3名は独立機関としての立場から、適正な監視を行うため定期的に監査役会を開催し、打ち合わせを行い、また、会計監査人を含めた積極的な情報交換により連携をとっております。

相互連携並びに内部統制部門の関係につきましては、監査役監査と同様に、当社管理部の全面的協力体制の基で、コミュニケーションを良好に保ち、各監査役から管理部への報告及び連絡や社外監査役の監査業務におきまして不備が生じないよう取り組んでまいりる考えであります。

当社といたしましては、企業の統治体制がより高度に機能していくために、内部監査・監査役監査・会計監査に対して、理解と協力を継続してまいります。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、監査役会制度を採用しております。常勤監査役1名及び非常勤監査役2名で構成されており、うち2名が社外監査役であります。

常勤監査役の橋本学氏は、当社の取締役管理部マネージャーとして1991年5月より2000年6月まで、管理業務に従事しており、監査についても精通していると認識しております。

社外監査役の川崎修一氏は、弁護士の資格を持ち、コンプライアンスに対して高い知見を有するため、当社のコンプライアンス向上に寄与していただけるものと認識しております。

社外監査役の日比大介氏は、公認会計士及び税理士の資格を持ち、財務及び会計に関して相当の知見を有するため、当社の財務報告の適正性に貢献していただけるものと認識しております。

当事業年度において監査役会は毎月開催しており、ここの監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
橋 本 学	12回	12回
川 崎 修 一	12回	11回
日 比 大 介	12回	12回

監査役は、監査役会で策定した監査計画に基づいて、当社及び子会社の業務全般について、常勤監査役を中心として計画的かつ網羅的な監査を実施しております。また、取締役会その他重要な会議に出席し、意見を述べるほか、取締役からの聴取、重要な決裁書類の閲覧を通じ監査を実施しております。監査役3名は独立機関としての立場から、適正な監視を行うため定期的に監査役会を開催し、打ち合わせを行い、また、会計監査人を含めた積極的な情報交換により連携をとっております。

内部監査の状況

内部監査室は、内部監査室長が内部監査規程に基づき、グループ会社を含む各部門の業務活動に関して、期首に代表取締役に対して内部監査の方針及び計画書を提出し、承認を受けた後に、計画に基づき内部監査を実施し報告書等を関係機関に対して提出しております。

内部監査、監査役監査及び会計監査と内部統制部門である当社管理部との関係につきましては、各監査に対して全面的な協力体制を敷き、資料のサンプルチェック、ヒヤリングの他、補足資料の提供やその説明を行うことなどを従来より実施しております。

内部監査、監査役監査及び会計監査と内部統制部門の相互連携に関しましては、定期的な会合を持ち、監査役が取締役会へ出席して得た情報を共有化し、財務・コンプライアンスの健全性・適正性のために継続して注力してまいります。

また、各監査より、内部統制部門に対して、各々の専門的立場から適時適切に積極的な指導・アドバイスをいただいております。

なお、内部監査及び監査役監査に関しましては、監査の方針・監査の計画・監査方法及び監査業務の分担を定め、監査内容の劣化に繋がらないように対応しております。

会計監査の状況

(a) 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

(b) 業務を執行した公認会計士

当社の監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人及び上場会社に関わる継続監査年数は次のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名	継続監査年数
川 島 繁 雄	有限責任監査法人トーマツ	
浅 井 則 彦	有限責任監査法人トーマツ	

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

(c) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士2名、会計士試験合格者等3名となります。

(d) 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人候補者から、監査法人の概要、監査の実施体制等、監査報酬の見積額についての書面を入手し、面談等を通じて選定しております。

現会計監査人は、株式公開準備の時期より、每期適切な監査をしていただいていると認識しているため、選定いたしました。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出します。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

(e) 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、会計監査人に対して評価を行っております。この評価については、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求めました。その結果、会計監査人の職務執行に問題はないと評価し、有限責任監査法人トーマツの再任を決議いたしました。

監査報酬の内容等

(a) 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	20		21	
連結子会社				
計	20		21	

(b) 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬 ((a) を除く)

該当事項はありません。

(c) その他の重要な監査証明書業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

(d) 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

(e) 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りなどが当社の事業規模や事業内容に適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の役員の報酬等の額の決定に関する方針等は、経営組織を肥大化させない方針であります。

取締役の員数は定款において10名以内、監査役の員数は3名と規定し、報酬額の総額は、1996年6月27日開催の第15回定時株主総会において、取締役は年額200百万円以内、監査役は50百万円以内と決議いただいております。

また、個々の報酬額その決定方法は、取締役会において業務の内容・資質及び経験等を総合的に勘案し、決定しております。

今後も、取締役会におきまして組織の規模拡大に応じた経営組織のあり方と役員の報酬等の額につき決定していく方針であります。

当社の取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は、取締役会であり、株主総会で決議された報酬総額の範囲内において、担当職務、各期の業績、貢献度等を総合的に勘案して決定する権限を有しております。監査役の報酬等は、株主総会で決議された報酬総額の範囲内において、常勤、非常勤の別、業務分担の状況を考慮して、監査役の協議により決定しております。

なお、提出会社の役員が当事業年度に受けている報酬等は、固定報酬のみであります。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	73	63			10	4
監査役 (社外監査役を除く。)	9	9				1
社外役員	3	3				3

(注) 取締役のうち2名については、上記報酬等の総額に含まれていない当社子会社からの役員報酬として総額3百万円を支給しております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上の者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なものがないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、もっぱら株式の価値の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を「純投資目的である投資株式」、それ以外の株式を「純投資目的以外の目的である投資株式」に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

(a) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、持続的な成長と社会的価値、経済的価値を高めるため、安定した金融取引維持など経営戦略の一環として、また、取引先及び地域社会との良好な関係を構築し、事業の円滑な推進を図るため必要と判断する企業の株式を保有しています。

当社は、取締役会において、毎期、個別の保有株式について、保有目的（安定した金融取引維持等）が適切かどうか、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているかどうかを検証し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると認められない株式がある場合は、株主として相手企業との必要十分な対話を行います。対話の実施によっても、改善が認められない株式については、適時・適切に売却します。

(b) 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式以外の株式	4	86

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

(c) 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
(株)愛知銀行	12,000	12,000	(保有目的)安定した金融取引維持のため。 (定量的な保有効果)(注)	有
	41	64		
(株)名古屋銀行	6,900	6,900	(保有目的)安定した金融取引維持のため。 (定量的な保有効果)(注)	有
	24	27		
(株)十六銀行	7,900	7,900	(保有目的)安定した金融取引維持のため。 (定量的な保有効果)(注)	有
	17	22		
(株)りそなホールディングス	6,500	6,500	(保有目的)安定した金融取引維持のため。 (定量的な保有効果)(注)	有
	3	3		

(注) 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、保有の合理性を検証した方法について記載いたします。当社は、毎期、個別の保有株式について保有の意義を検証しており、2019年3月31日を基準とした検証の結果、現状保有する投資株式は、いずれも保有方針に沿った目的で保有していることを確認しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下の通り連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、積極的な情報の収集に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,004,692	4,923,789
受取手形及び売掛金	19,279	20,699
商品及び製品	116,907	172,544
原材料及び貯蔵品	15,756	12,951
前払費用	50,982	49,541
その他	16,853	37,438
流動資産合計	5,224,472	5,216,965
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	508,783	498,305
減価償却累計額	289,847	279,397
建物及び構築物(純額)	218,935	218,908
土地	131,417	130,646
その他	88,187	90,017
減価償却累計額	77,449	79,740
その他(純額)	10,738	10,276
有形固定資産合計	361,090	359,831
無形固定資産		
ソフトウェア	8,784	6,627
のれん	81,676	58,235
その他	24,890	21,708
無形固定資産合計	115,350	86,571
投資その他の資産		
投資有価証券	228,488	179,358
関係会社株式	-	23,583
長期貸付金	24,268	29,506
長期前払費用	14,006	7,540
繰延税金資産	55,078	50,683
投資不動産	111,244	98,811
敷金及び保証金	238,415	221,980
保険積立金	148,437	101,187
その他	5,034	10,477
投資その他の資産合計	824,974	723,130
固定資産合計	1,301,415	1,169,534
資産合計	6,525,888	6,386,499

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	35,491	37,881
短期借入金	250,000	250,000
1年内返済予定の長期借入金	74,672	-
未払金	43,571	32,412
未払法人税等	65,915	57,080
未払消費税等	25,220	20,269
未払費用	100,710	106,043
前受金	78,509	88,155
賞与引当金	51,395	47,839
資産除去債務	979	-
その他	15,452	30,743
流動負債合計	741,916	670,425
固定負債		
退職給付に係る負債	108,261	105,927
資産除去債務	18,729	18,516
その他	13,138	9,629
固定負債合計	140,129	134,073
負債合計	882,045	804,498
純資産の部		
株主資本		
資本金	212,700	212,700
資本剰余金	29,700	29,700
利益剰余金	5,757,381	5,733,097
自己株式	370,992	370,992
株主資本合計	5,628,789	5,604,504
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,511	40,340
為替換算調整勘定	19,565	17,836
その他の包括利益累計額合計	15,054	22,503
純資産合計	5,643,843	5,582,001
負債純資産合計	6,525,888	6,386,499

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	3,305,668	3,433,407
売上原価	2,132,903	2,250,227
売上総利益	1,172,764	1,183,179
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	121,009	114,942
役員報酬	97,600	79,600
役員退職慰労金	-	10,000
給料及び手当	174,734	195,222
雑給	14,324	19,339
賞与	22,448	23,079
賞与引当金繰入額	12,175	12,254
法定福利及び厚生費	47,185	51,627
旅費及び交通費	54,351	51,151
地代家賃	81,813	76,402
減価償却費	11,316	10,553
のれん償却額	-	16,335
支払手数料	111,124	112,956
その他	226,201	218,030
販売費及び一般管理費合計	974,285	991,495
営業利益	198,479	191,684
営業外収益		
受取利息	1,136	1,393
受取配当金	5,702	4,690
保険解約返戻金	227	62,929
受取手数料	253	283
受取賃貸料	1,703	2,468
受取保険金	268	258
その他	3,556	1,333
営業外収益合計	12,848	73,357
営業外費用		
支払利息	3,528	3,837
持分法による投資損失	-	916
投資有価証券評価損	2,605	4,029
その他	292	1,001
営業外費用合計	6,426	9,785
経常利益	204,900	255,256
特別利益		
事業分離における移転利益	-	5,660
固定資産売却益	-	¹ 1,476
投資有価証券売却益	77,341	4,221
特別利益合計	77,341	11,358
特別損失		
固定資産売却損	-	² 68
固定資産除却損	³ 5,569	³ 4,299
減損損失	-	⁴ 13,726
特別損失合計	5,569	18,094
税金等調整前当期純利益	276,672	248,520

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
法人税、住民税及び事業税	109,321	103,017
法人税等調整額	2,673	4,394
法人税等合計	106,647	107,412
当期純利益	170,025	141,107
親会社株主に帰属する当期純利益	170,025	141,107

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	170,025	141,107
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62,431	35,829
為替換算調整勘定	1,138	1,728
その他の包括利益合計	1 61,293	1 37,557
包括利益	108,731	103,549
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	108,731	103,549
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	212,700	29,700	5,758,767	238,853	5,762,314
当期変動額					
剰余金の配当			171,411		171,411
親会社株主に帰属する当期純利益			170,025		170,025
自己株式の取得				132,139	132,139
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,386	132,139	133,525
当期末残高	212,700	29,700	5,757,381	370,992	5,628,789

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	57,920	18,426	76,347	5,838,661
当期変動額				
剰余金の配当				171,411
親会社株主に帰属する当期純利益				170,025
自己株式の取得				132,139
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	62,431	1,138	61,293	61,293
当期変動額合計	62,431	1,138	61,293	194,818
当期末残高	4,511	19,565	15,054	5,643,843

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	212,700	29,700	5,757,381	370,992	5,628,789
当期変動額					
剰余金の配当			165,391		165,391
親会社株主に帰属する当期純利益			141,107		141,107
自己株式の取得					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	24,284	-	24,284
当期末残高	212,700	29,700	5,733,097	370,992	5,604,504

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	4,511	19,565	15,054	5,643,843
当期変動額				
剰余金の配当				165,391
親会社株主に帰属する当期純利益				141,107
自己株式の取得				-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	35,829	1,728	37,557	37,557
当期変動額合計	35,829	1,728	37,557	61,842
当期末残高	40,340	17,836	22,503	5,582,001

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	276,672	248,520
減価償却費	38,719	32,891
減損損失	-	13,726
移転利益	-	5,660
のれん償却額	-	16,335
賞与引当金の増減額(は減少)	6,000	3,555
受取利息及び受取配当金	6,838	6,084
支払利息	3,528	3,837
保険解約損益(は益)	227	62,929
持分法による投資損益(は益)	-	916
投資有価証券売却損益(は益)	77,341	4,221
投資有価証券評価損益(は益)	2,605	4,029
有形固定資産売却損益(は益)	-	1,476
有形固定資産除却損	676	232
無形固定資産除却損	-	890
投資その他資産除却損	4,893	3,175
売上債権の増減額(は増加)	2,973	1,420
たな卸資産の増減額(は増加)	1,985	52,832
仕入債務の増減額(は減少)	1,728	2,390
前受金の増減額(は減少)	11,589	9,646
預り保証金の増減額(は減少)	335	3,509
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	12,629	2,333
未払消費税等の増減額(は減少)	4,847	4,929
その他の流動資産負債の増減額	18,789	8,089
その他	730	501
小計	246,048	196,233
利息及び配当金の受取額	6,834	6,082
利息の支払額	3,521	3,830
法人税等の支払額	83,535	109,830
法人税等の還付額	13,932	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	179,758	88,654

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	751,900	751,900
定期預金の払戻による収入	751,900	751,900
有形固定資産の取得による支出	30,743	48,798
有形固定資産の売却による収入	9,418	5,076
無形固定資産の取得による支出	7,268	1,723
保険積立金の解約による収入	-	110,473
関係会社株式の取得による支出	-	24,500
投資有価証券の売却による収入	122,233	13,491
投資不動産の取得による支出	99,493	-
投資不動産の売却による収入	-	9,641
投資その他の資産の取得による支出	28,891	9,903
投資その他の回収による収入	36,546	25,881
貸付けによる支出	15,969	25,400
貸付金の回収による収入	16,963	18,935
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	1 10,365	-
その他	-	1,402
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,570	71,772
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	74,672
自己株式の取得による支出	132,139	-
配当金の支払額	171,411	165,391
財務活動によるキャッシュ・フロー	303,550	240,063
現金及び現金同等物に係る換算差額	786	1,267
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	130,575	80,903
現金及び現金同等物の期首残高	4,382,759	4,252,183
現金及び現金同等物の期末残高	2 4,252,183	2 4,171,280

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

(株)螢雪ゼミナール

(有)アクシス

(株)日本体験センター

上海井上憲商務諮詢有限公司

住源房地產經紀(上海)有限公司

CLIP FIRST LINK PTE.LTD.

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数及び主要な会社等の名称

持分法を適用した関連会社の数 1社

主要な会社等の名称 株式会社S M C

当連結会計年度から新たに出資を行った株式会社S M Cを持分法適用の範囲に含めております。

(2) 持分法の適用の手続について特に記載すべき事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の直近の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の(株)螢雪ゼミナール及び(有)アクシスの決算日は2月28日であり、上海井上憲商務諮詢有限公司、住源房地產經紀(上海)有限公司及びCLIP FIRST LINK PTE.LTD.の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の財務諸表を使用し連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

a 商品

主として総平均法

b 貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法によっております。ただし、1998年4月以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	3～50年
その他	2～20年

無形固定資産

定額法によっております。

ただし、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

長期前払費用

定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度負担分を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

当社及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

月謝収入及び季節講習収入は、受講期間に対応して計上し、入会金収入は入会時の属する連結会計年度の収益として計上しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産を投資その他の資産の区分に表示し、税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産に表示されていた「繰延税金資産」32,269千円及び固定負債に表示されていた「繰延税金負債」246千円は、固定資産の「繰延税金資産」32,022千円として組替えております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	- 千円	781千円
土地	- 千円	695千円
計	- 千円	1,476千円

2 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
投資不動産	- 千円	68千円
計	- 千円	68千円

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
賃貸契約解約分	3,917千円	3,710千円
建物及び構築物	- 千円	232千円
有形固定資産その他	676千円	0千円
ソフトウェア	- 千円	204千円
投資その他の資産	975千円	151千円
計	5,569千円	4,299千円

4 減損損失の内容は、次のとおりであります。

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日）

(1) 減損損失を認識した資産

場所	用途	種類
岐阜県岐阜市	学習塾	建物及び構築物
兵庫県西宮市		のれん

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当初想定していた収益を見込めなくなったため、減損損失を認識しております。

(3) 減損損失の金額

建物及び構築物	6,621千円
のれん	7,105千円
計	13,726千円

(4) 資産のグルーピングの方法

当社グループは、減損会計の適用に当たって、原則として事業部を基礎とした商品・サービス別事業セグメントによるグルーピングを行っております。

なお、一部の子会社の資産については個々の校舎をグルーピングの最小単位としております。

(5) 回収可能価額

回収可能価額については、使用価値により測定しております。

事業で継続的に使用する予定の資産につきましては、使用価値により測定しており、当期に減損を認識したグループにおいては営業活動から生じるキャッシュ・フローが継続してマイナスであることから、回収可能価額は零と算定しております。

のれんにつきましては、将来キャッシュ・フローを見積り、使用価値を求め、回収可能価額を算定しております。なお、割引率は、資本コストから算出した2.519%を使用しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	10,520千円	31,607千円
組替調整額	77,341千円	4,221千円
税効果調整前	87,862千円	35,829千円
税効果額	25,430千円	- 千円
その他有価証券 評価差額金	62,431千円	35,829千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	1,138千円	1,728千円
その他の包括利益合計	61,293千円	37,557千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,536,000			4,536,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	250,712	150,500		401,212

(変動事由の概要)

2017年5月22日の取締役会決議による自己株式の取得 150,500株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月21日 定時株主総会	普通株式	171,411	40	2017年3月31日	2017年6月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	165,391	40	2018年3月31日	2018年6月22日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,536,000			4,536,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	401,212			401,212

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月21日 定時株主総会	普通株式	165,391	40	2018年3月31日	2018年6月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	165,391	40	2019年3月31日	2019年6月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

株式の取得により新たに(有)アクシスを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに(有)アクシス株式の取得価額と(有)アクシス取得のための支出との関係は次のとおりです。

流動資産	87,657千円
固定資産	28,106千円
のれん	81,676千円
流動負債	90,515千円
固定負債	21,925千円
株式の取得価額	85,000千円
現金及び現金同等物	74,634千円
差引：取得のための支出	10,365千円

当連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

2 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金	5,004,692千円	4,923,789千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	752,508千円	752,509千円
現金及び現金同等物	4,252,183千円	4,171,280千円

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	4,703千円	4,040千円
1年超	4,858千円	5,435千円
合計	9,561千円	9,475千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、余資については安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。営業債務である買掛金は、ほとんど1ヶ月以内の支払期日であります。借入金は、短期的な運転資金の調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権について、生徒管理システムのデータをもとに、各事業部門において、顧客ごとに残高を管理するとともに、月内の回収徹底により、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクにさらされる金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、管理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を定期的に確認することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権の相手先のほとんどが個別の生徒になりますので、信用リスクの集中はありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）を参照ください。）。

前連結会計年度（2018年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,004,692	5,004,692	
(2) 受取手形及び売掛金	19,279	19,279	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	131,700	131,700	
(4) 敷金及び保証金	238,415	236,782	1,633
資産計	5,394,088	5,392,455	1,633
(1) 支払手形及び買掛金	35,491	35,491	
(2) 短期借入金	250,000	250,000	
(3) 未払法人税等	65,915	65,915	
負債計	351,406	351,406	

当連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,923,789	4,923,789	
(2) 受取手形及び売掛金	20,699	20,699	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	86,730	86,730	
(4) 敷金及び保証金	221,980	219,104	2,876
資産計	5,253,200	5,250,323	2,876
(1) 支払手形及び買掛金	37,881	37,881	
(2) 短期借入金	250,000	250,000	
(3) 未払法人税等	57,080	57,080	
負債計	344,962	344,962	

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金はすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 敷金及び保証金

当社グループでは、敷金及び保証金の時価の算定は、物件の使用用途に分類し、区分ごとに過去の退去実績に鑑み、平均入居期間を算定した上で、回収可能性を反映した受取見込額を、国債の利回り等適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金

買掛金はすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 短期借入金

短期借入金はすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 未払法人税等

未払法人税等はすべて短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
投資事業有限責任組合への出資	96,787	92,628

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	5,004,692			
受取手形及び売掛金	19,279			
敷金及び保証金	12,236			
合計	5,036,209			

(注) 敷金及び保証金については、償還予定が確定しているもののみ記載しており、返還期日を明確に把握できないもの(帳簿価額226,178千円)については、償還予定額には含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	4,923,789			
受取手形及び売掛金	20,699			
敷金及び保証金	12,041			
合計	4,956,530			

(注) 敷金及び保証金については、償還予定が確定しているもののみ記載しており、返還期日を明確に把握できないもの(帳簿価額 209,939千円)については、償還予定額には含めておりません。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	30,942	21,066	9,876
その他	14,041	9,270	4,771
小計	44,984	30,336	14,648
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	86,716	106,193	19,476
その他	96,787	100,000	3,212
小計	183,503	206,193	22,689
合計	228,488	236,529	8,041

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	27,751	21,066	6,685
その他			
小計	27,751	21,066	6,685
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	58,979	106,193	47,214
その他	92,628	100,000	7,371
小計	151,607	206,193	54,585
合計	179,358	227,259	47,900

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	122,233	77,341	
合計	122,223	77,341	

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	13,491	4,221	
合計	13,491	4,221	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

退職一時金制度では、退職給付として（当社は積立型制度であります）、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

また、当社では、退職一時金制度にキャッシュ・バランス・プランを導入しております。当該制度では、加入者ごとに積立額の原資に相当する仮想個人口座を設けております。仮想個人口座には、主として市場金利の動向に基づく利息クレジットと、給与水準等に基づく拠出クレジットを累積しております。

なお、当社及び連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	76,018	108,261
退職給付費用	20,564	19,877
退職給付の支払額	1,608	16,084
制度への拠出額	6,326	6,126
新規連結子会社の取得による増加額	19,613	
退職給付に係る負債の期末残高	108,261	105,927

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	61,026	61,922
年金資産	26,577	28,991
	34,448	32,931
非積立型制度の退職給付債務	73,812	72,996
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	108,261	105,927
退職給付に係る負債	108,261	105,927
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	108,261	105,927

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度20,564千円 当連結会計年度19,877千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金(注)2	13,259千円	19,054千円
賞与引当金	16,215千円	15,050千円
未払法定福利費	2,324千円	2,165千円
一括償却資産	613千円	315千円
未払事業税	5,746千円	5,660千円
資産除去債務	6,452千円	6,112千円
商品評価損	1,513千円	1,541千円
退職給付に係る負債	35,406千円	34,659千円
減損損失	5,917千円	6,183千円
投資有価証券評価損	1,076千円	2,306千円
支払手数料	2,745千円	2,745千円
その他有価証券評価差額金	1,376千円	12,307千円
その他	1,141千円	1,146千円
繰延税金資産小計	93,790千円	109,250千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2		16,085千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		40,397千円
評価性引当額小計(注)1	36,459千円	56,482千円
繰延税金資産合計	57,330千円	52,767千円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	2,252千円	2,084千円
繰延税金負債合計	2,252千円	2,084千円
繰延税金資産純額	55,078千円	50,683千円

(注) 1. 評価性引当額に重要な変動はありません。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額
当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)						19,054	19,054千円
評価性引当額						16,085	16,085 "
繰延税金資産						2,968	(b)2,968 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金19,054千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産2,968千円を計上しております。当該繰延税金資産2,968千円は、連結子会社有限会社アクシスにおける税務上の繰越欠損金の残高19,054千円(法定実効税率を乗じた額)の一部について認識したものであります。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、2018年3月期に税引前当期純損失を80,566千円計上したことにより生じたものであり、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.7%	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.1%	4.2%
住民税均等割	1.1%	1.3%
のれん償却額	%	2.0%
評価性引当額の増減	1.9%	1.3%
連結子会社当期純損失	0.2%	0.2%
子会社税率差異	1.7%	3.1%
その他	1.2%	0.7%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.5%	43.2%

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、商品・サービス別に事業部及び連結子会社を置き、各事業部及び連結子会社は取り扱う商品・サービスについて戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業部及び連結子会社を基礎とした商品・サービス別事業セグメントから構成されており、事業活動の内容及び経営環境に関して適切な情報を提供するため、経済的特徴及び商品・サービス等の要素が概ね類似する複数の事業セグメントを集約し、「教育事業」、「スポーツ事業」及び「飲食事業」の3つを報告セグメントとしております。

「教育事業」は、小・中学生及び高校生を対象とした学習塾を行っております。「スポーツ事業」は、幼児・小学生を対象としたサッカー教室を行っております。「飲食事業」は、弁当の宅配事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

	報告セグメント				その他 (注)1 (千円)	合計 (千円)	調整額 (注)2 (千円)	連結財務諸表 計上額(注)3 (千円)
	教育事業 (千円)	スポーツ事業 (千円)	飲食事業 (千円)	計 (千円)				
売上高								
外部顧客に 対する売上高	2,351,586	589,882	216,704	3,158,173	147,494	3,305,668	-	3,305,668
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	3,060	3,060	3,060	-
計	2,351,586	589,882	216,704	3,158,173	150,555	3,308,728	3,060	3,305,668
セグメント利益 又は損失()	227,294	38,662	56,666	209,290	10,810	198,479	-	198,479
セグメント資産	2,606,953	81,090	75,962	2,764,006	215,429	2,979,435	3,546,452	6,525,888
セグメント負債	598,678	11,107	16,833	626,619	5,426	632,045	250,000	882,045
その他の項目								
減価償却費	29,021	3,618	1,422	34,062	4,657	38,719	-	38,719
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	48,240	719	222	49,183	-	49,183	1,290	50,473

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バスケット教室事業・農業事業・中古ゴルフクラブ販売事業及び焼肉店事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント資産の調整額3,546,452千円は、本社の現金及び預金、投資有価証券であります。

(2) セグメント負債の調整額250,000千円は、本社の短期借入金であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額1,290千円は、主に本社設備の投資額であります。

3. セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

	報告セグメント				その他 (注)1 (千円)	合計 (千円)	調整額 (注)2 (千円)	連結財務諸表 計上額(注)3 (千円)
	教育事業 (千円)	スポーツ事業 (千円)	飲食事業 (千円)	計 (千円)				
売上高								
外部顧客に 対する売上高	2,535,954	572,852	210,840	3,319,647	113,759	3,433,407	-	3,433,407
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	3,840	3,840	3,840	-
計	2,535,954	572,852	210,840	3,319,647	117,599	3,437,247	3,840	3,433,407
セグメント利益 又は損失()	290,666	24,991	55,520	210,153	18,469	191,684	-	191,684
セグメント資産	2,189,187	128,846	286,060	2,604,094	213,964	2,818,058	3,568,440	6,386,499
セグメント負債	528,517	3,489	16,906	548,913	5,585	554,498	250,000	804,498
その他の項目								
減価償却費	23,373	3,554	1,124	28,052	4,838	32,891	-	32,891
のれんの償却額	16,335	-	-	16,335	-	16,335	-	16,335
持分法投資損失 ()	-	-	-	-	916	916	-	916
特別損失 (減損損失)	13,726	-	-	13,726	-	13,726	-	13,726
持分法適用会社 への投資額	-	-	-	-	23,583	23,583	-	23,583
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	36,208	-	-	36,208	-	36,208	3,239	39,448

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バスケット教室事業・農業事業・中古ゴルフクラブ販売事業及び焼肉店事業等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント資産の調整額3,568,440千円は、本社の現金及び預金、投資有価証券であります。

(2) セグメント負債の調整額250,000千円は、本社の短期借入金であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額3,239千円は、主に本社設備の投資額であります。

3. セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

	報告セグメント				その他 (千円)	全社・消去 (千円)	合計 (千円)
	教育事業 (千円)	スポーツ事業 (千円)	飲食事業 (千円)	計 (千円)			
当期償却額	-	-	-	-	-	-	-
当期末残高	81,676	-	-	81,676	-	-	81,676

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

	報告セグメント				その他 (千円)	全社・消去 (千円)	合計 (千円)
	教育事業 (千円)	スポーツ事業 (千円)	飲食事業 (千円)	計 (千円)			
当期償却額	16,335	-	-	16,335	-	-	16,335
当期末残高	58,235	-	-	58,235	-	-	58,235

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等
前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等
前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主(法人)	株式会社平和堂	名古屋市千種区	32,000	資産管理会社	(被所有)直接27.8	主要株主	自己株式の購入	43,900		

(注) 自己株式の購入につきましては、2017年5月22日開催の取締役会決議に基づき、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)を利用し、2017年5月22日の株価終値878円で取引を行っております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	1,364.97円	1,350.01円
1株当たり当期純利益金額	40.90円	34.13円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	170,025	141,107
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	170,025	141,107
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,157	4,134

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	5,643,843	5,582,001
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,643,843	5,582,001
差額の主な内訳(千円)		
普通株式の発行済株式数(千株)	4,536	4,536
普通株式の自己株式数(千株)	401	401
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(千株)	4,134	4,134

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	250,000	250,000	1.287	
1年以内に返済予定の長期借入金	74,672		1.200	
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)				
その他有利子負債				
合計	324,672	250,000		

(注) 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	736,885	1,645,159	2,491,065	3,433,407
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額又は 税金等調整前四半期純 損失金額() (千円)	81,131	40,648	76,349	248,520
親会社株主に帰属する 四半期(当期) 純利益金額又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失金額() (千円)	79,312	10,316	34,754	141,107
1株当たり四半期 (当期)純利益金額又は 1株当たり四半期 純損失金額() (円)	19.18	2.50	8.41	34.13

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額() (円)	19.18	21.68	5.91	25.72

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,497,478	3,389,081
売掛金	1 14,456	14,797
商品及び製品	94,398	147,210
原材料及び貯蔵品	14,626	12,327
前払費用	27,398	24,943
短期貸付金	1 8,937	1 9,412
その他	1 10,724	1 29,614
流動資産合計	3,668,019	3,627,387
固定資産		
有形固定資産		
建物	115,711	99,761
車両運搬具	517	1,244
工具、器具及び備品	5,181	5,189
土地	130,646	130,646
有形固定資産合計	252,057	236,842
無形固定資産		
ソフトウェア	3,927	1,685
電話加入権	17,417	17,417
無形固定資産合計	21,345	19,103
投資その他の資産		
投資有価証券	228,488	179,358
関係会社株式	469,253	493,753
関係会社出資金	39,075	39,075
長期貸付金	1 42,548	1 46,998
長期前払費用	4,659	3,462
投資不動産	111,244	98,811
敷金及び保証金	72,812	67,436
保険積立金	145,335	97,847
繰延税金資産	17,547	13,145
その他	4,984	10,427
投資その他の資産合計	1,135,949	1,050,316
固定資産合計	1,409,351	1,306,262
資産合計	5,077,371	4,933,650

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	13,137	12,969
短期借入金	250,000	250,000
未払金	14,237	14,574
未払法人税等	48,582	4,320
未払消費税等	8,986	222
未払費用	54,857	62,355
前受金	50,224	47,933
預り金	10,616	10,594
賞与引当金	35,457	33,375
その他	925	12,268
流動負債合計	487,024	448,613
固定負債		
退職給付引当金	34,448	32,931
長期預り保証金	7,538	7,229
資産除去債務	6,131	4,150
固定負債合計	48,118	44,310
負債合計	535,143	492,924
純資産の部		
株主資本		
資本金	212,700	212,700
資本剰余金		
資本準備金	29,700	29,700
資本剰余金合計	29,700	29,700
利益剰余金		
利益準備金	23,660	23,660
その他利益剰余金		
別途積立金	1,905,000	1,905,000
繰越利益剰余金	2,746,671	2,680,999
利益剰余金合計	4,675,331	4,609,659
自己株式	370,992	370,992
株主資本合計	4,546,739	4,481,067
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,511	40,340
評価・換算差額等合計	4,511	40,340
純資産合計	4,542,228	4,440,726
負債純資産合計	5,077,371	4,933,650

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	2 2,080,811	2 2,059,064
売上原価	1,291,327	2 1,321,853
売上総利益	789,484	737,211
販売費及び一般管理費	1 753,563	1 755,717
営業利益又は営業損失()	35,920	18,506
営業外収益		
受取利息及び配当金	2 81,770	2 81,795
受取保険金	150	159
受取手数料	218	250
受取賃貸料	2 2,818	2,086
保険解約返戻金	227	62,929
受取出向料	2 22,452	-
その他	1,091	1,182
営業外収益合計	108,729	148,402
営業外費用		
支払利息	3,528	3,545
投資有価証券評価損	2,605	4,029
その他	130	934
営業外費用合計	6,264	8,509
経常利益	138,385	121,386
特別利益		
事業分離における移転利益	-	5,660
投資有価証券売却益	77,341	4,221
特別利益合計	77,341	9,881
特別損失		
固定資産売却損	-	68
固定資産除却損	5,068	2,006
特別損失合計	5,068	2,075
税引前当期純利益	210,658	129,193
法人税、住民税及び事業税	57,022	25,072
法人税等調整額	1,075	4,402
法人税等合計	55,947	29,474
当期純利益	154,711	99,719

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	212,700	29,700	29,700	23,660	1,905,000	2,763,372	4,692,032
当期変動額							
剰余金の配当						171,411	171,411
当期純利益						154,711	154,711
自己株式の取得							-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	16,700	16,700
当期末残高	212,700	29,700	29,700	23,660	1,905,000	2,746,671	4,675,331

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	238,853	4,695,578	57,920	57,920	4,753,499
当期変動額					
剰余金の配当		171,411			171,411
当期純利益		154,711			154,711
自己株式の取得	132,139	132,139			132,139
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			62,431	62,431	62,431
当期変動額合計	132,139	148,839	62,431	62,431	211,271
当期末残高	370,992	4,546,739	4,511	4,511	4,542,228

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	212,700	29,700	29,700	23,660	1,905,000	2,746,671	4,675,331
当期変動額							
剰余金の配当						165,391	165,391
当期純利益						99,719	99,719
自己株式の取得							-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	65,672	65,672
当期末残高	212,700	29,700	29,700	23,660	1,905,000	2,680,999	4,609,659

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	370,992	4,546,739	4,511	4,511	4,542,228
当期変動額					
剰余金の配当		165,391			165,391
当期純利益		99,719			99,719
自己株式の取得		-			-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			35,829	35,829	35,829
当期変動額合計	-	65,672	35,829	35,829	101,501
当期末残高	370,992	4,481,067	40,340	40,340	4,440,726

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

商品

主として総平均法

貯蔵品

最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。ただし、1998年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	10～41年
機械及び装置	2～8年
車両運搬具	2～6年
工具、器具及び備品	3～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

ただし、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 長期前払費用

定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当事業年度負担分を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4. 収益及び費用の計上基準

月謝収入及び季節講習収入は、受講期間に対応して計上し、入会金収入は入会時の属する事業年度の収益として計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」16,825千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」17,547千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	7,588千円	5,776千円
長期金銭債権	24,857千円	19,532千円

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
役員報酬	87,700千円	76,200千円
給料及び手当	133,077千円	141,063千円
賞与引当金繰入額	9,976千円	9,531千円
地代家賃	65,567千円	64,443千円
減価償却費	8,164千円	7,409千円
支払手数料	91,567千円	96,287千円

おおよその割合

販売費	19%	19%
一般管理費	81%	81%

2 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	31,097千円	30,046千円
仕入高		1,424千円
営業取引以外の取引による取引高		
受取利息及び配当金	75,039千円	75,843千円
受取賃貸料	1,114千円	
受取出向料	22,452千円	

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
子会社株式	469,253	469,253
関連会社株式		24,500
子会社出資金	39,075	39,075
計	508,328	532,828

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	10,803千円	10,169千円
未払法定福利費	1,548千円	1,463千円
一括償却資産	335千円	151千円
未払事業税	4,227千円	1,143千円
商品評価損	1,344千円	1,541千円
退職給付引当金	10,509千円	10,047千円
減損損失	4,333千円	3,595千円
資産除去債務	1,870千円	1,266千円
関係会社出資金評価損	8,712千円	8,712千円
投資有価証券評価損	1,076千円	2,306千円
その他有価証券評価差額金	1,376千円	12,307千円
その他	332千円	214千円
繰延税金資産小計	46,471千円	52,919千円
評価性引当額	28,089千円	39,500千円
繰延税金資産合計	18,381千円	13,418千円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	833千円	272千円
繰延税金負債合計	833千円	272千円
繰延税金資産純額	17,547千円	13,145千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.3%	8.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	11.0%	17.8%
住民税均等割	1.0%	1.7%
評価性引当額の増減	1.1%	0.4%
その他	0.6%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.6%	22.8%

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引期末 帳簿価額 (千円)
有形固定資産							
建物	280,945	925	11,852	270,018	170,256	6,738	99,761
機械及び装置	2,219			2,219	2,219		
車両運搬具	8,277	1,658	1,253	8,682	7,438	931	1,244
工具、器具及び備品	43,607	2,801	1,989	44,419	39,229	2,075	5,189
土地	130,646			130,646			130,646
有形固定資産計	465,697	5,384	15,095	455,986	219,144	9,746	236,842
無形固定資産							
ソフトウェア	50,928			50,928	49,242	2,242	1,685
電話加入権	17,417			17,417			17,417
その他	39			39	39		
無形固定資産計	68,384			68,384	49,281	2,242	19,103

(注) 1. 「当期首残高」及び「当期末残高」については、取得価額により記載しております。

2. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	三重体験センターの増築工事	925千円
車両運搬具	営業用車両の取得	1,658千円
工具、器具及び備品	応接室用絵画の取得	2,314千円

3. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	焼肉本所店内装等売却	11,578千円
----	------------	----------

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	35,457	33,375	35,457	33,375

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞社に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.clip-cor.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
会社法第189条第2項各号に掲げる権利
会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書	事業年度 (第37期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月22日 東海財務局長に提出
(2) 内部統制報告書	事業年度 (第37期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月22日 東海財務局長に提出
(3) 四半期報告書、 四半期報告書の確認書	第38期 第1四半期	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	2018年8月10日 東海財務局長に提出
	第38期 第2四半期	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	2018年11月9日 東海財務局長に提出
	第38期 第3四半期	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	2019年2月8日 東海財務局長に提出

(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 2018年6月22日 東海財務局長に提出		
-----------	------------------------------------------------------------------------------------	--	--

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月21日

株式会社クリップコーポレーション

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川島	繁雄
--------------------	-------	----	----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	浅井	則彦
--------------------	-------	----	----

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社クリップコーポレーションの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クリップコーポレーション及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社クリップコーポレーションの2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社クリップコーポレーションが2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月21日

株式会社クリップコーポレーション

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川島	繁雄
--------------------	-------	----	----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	浅井	則彦
--------------------	-------	----	----

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社クリップコーポレーションの2018年4月1日から2019年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クリップコーポレーションの2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。